

『しっかりブー』の 100までぴんぴん物語 vol.1

フチカのリフォーム・新築で 100歳まで快適に!

Ｔ氏は大手量販店で管理職として東京で30年、大阪で8年勤務して来た。職務上は、それなりの結果が出せたと、満足している。そして今、できれば定年前に故郷福岡に帰り、企業人生の締めくくりの数年を送りたいと考えていた。同郷の妻も一人娘も、賛成してくれている。一家三人で福岡へ帰ろうと決意した。Ｔ氏には福岡市近郊のA市に両親が残してくれた一戸建の家がある。140坪の敷地に、40坪程の二階建て。昭和40年頃父親が購入して、Ｔ氏も高校時代から住んでいた思い出深い家だ。

そこで、2008年10月、友人である『しっかりブー』が住宅リフォームの仕事をやっていることを思い出し、電話をかけた。Ｔ氏は多忙な為、リフォームの打合せは妻に一任することにした。広いリビングの在る家になりたい。これが妻の一番の願いだった。

『しっかりブー』は、11月、12月、1月と打合せを重ねる。そしてある日、現地で打ち合わせしている折に気が付いた。「家の中が寒い、とにかく寒い。何とかせんといかん。」人が永年住んでいない事もあり、1月の旧家はとにかく寒かった。Ｔ氏一家の要望を基にプランを考えている内に、リフォーム工事の金額はかなりふくらんできた。『しっかりブー』は考えた。これは建て替えた方が良くかもしれない。リフォーム工事とあまり変わらない金額で、新しい家が建てられるかもしれない。

新築の家も
フチカにおまかせ!



昭和40年当時、技術の全てを尽くして建築した家も、現代住宅に住みなれた我々にとっては不満足なものになりつつあった。仏間兼座敷は後に増築された建物で接続部からの雨漏りもある。これは根本的に考え直した方が良い。今から100歳まで安心して暮らせる家を提案しよう。

『しっかりブー』は考えた。高齢者は階段での事故に遭うことが多い。二階建てはやめよう。そこで提案したのが、間口6.5間、奥行き5間、32.5坪の平屋だ。



広々としたリビング、なぜか夫婦別々の寝室（これが、後に行われた新築見学会で想定外に好評であった）(笑)。お嬢様には、結婚した後も同居ができるような広めの部屋、それに4畳半の仏間兼和室、掘りごたつもあり、庭を見ながら一杯やれる。プラス間口1間の納戸。これらのものがすべて、Ｔ氏一家の暮らしに便利であるように設計された。バリアフリーと必要要素に手すりをつけ、車イスでも対応出来るよう台所は広くとった。

2009年5月末、新しい家は無事に完成した。当初あと10年暮らせば良いと言っていた妻は、「快適です。あと40年くらい住みつづけたい。」と言った。

旧家は解体してしまったが、Ｔ氏のお父様が大切にしていた思い出深いものは残すこととなった。庭木の椿・しだれ梅・榎・松・つつじ・もみじ・それに石灯ろう・庭石などがそうである。

解体工事から新築・カーポート・庭づくり全て込みで約2000万円。Ｔ氏は『しっかりブー』に相談して良かったと満足してくれた。

還暦は人生の折り返し地点、『100までぴんぴん』Ｔ氏一家のこれから40年の人生が幸多きことを願う。



インテリアコーディネーター
山本 久美子

昔の思い出を残しつつ、現在の家族に合った家を作っています。その注文住宅ならではの良さに、Ｔ様家族の心をから思いやるフチカの皆様の想いが加わり、とても良い家間でした。

奥様の想いとこだわりを形にしておく作業は、大変ながらもとても楽しく、有意義な時間でした。

これからも続く生活の中で、新しい家がＴ様ご家族の中で暮らしの喜びとなることを心から願っております。



お見積り・ご相談はもちろん無料! お気軽にお電話ください!